

上醍醐

上醍醐は、空海（774～835）の修行僧であり孫弟子である聖宝（832～909、死後は理源大師として知られる）によって最初に寺院が設立された場所です。空海は、密教の真言宗を確立しました。

上醍醐は、現在の醍醐寺が広がる笠取山の頂上にあります。上醍醐に行くには、並木道を登ります。上醍醐の入り口には聖なる湧水の源と考えられている泉があります。この泉があったために聖宝はここに寺院を建立しました。

現存する重要な建物が五大堂です。このお堂には五大明王が安置されています。仏教の真言宗では、明王は仏陀、菩薩に次いで3番目に重要な位置づけだと考えられています。今日、明王の彫像は、寺院の博物館である霊宝館に安置されています。

上醍醐の建物の多くは、重要文化財または国宝に指定されています。火災によりいくつかが破壊され、再建されました。